



な が れ

プ ラ ス 思 考

副校長 深 尾 剛

早いもので、今年も残すところひと月となりました。日が暮れるのも早くなり、昼の時間帯でも寒く年の瀬を感じるようになってきました。

先月11日（土）に行われた学習発表会（音楽会・作品展）には、保護者・地域の皆様をはじめ、大勢の方々に御来校いただきありがとうございました。子供たちは大勢の人の前で緊張しながらも日頃の成果を発揮しようと張り切って合唱・合奏をし、充実した発表になりました。作品展も自分の思いを込めた作品をみていただいたり声を掛けていただいたりして、子供たちにとって大変励みになりました。本当に一人一人にとって大きな経験となった学習発表会でした。また、多くの方に、準備・片付け等、いろいろな場面で御協力いただき、学習発表会を無事に終えることができました。この場を借りて、御礼申し上げます。



【学習発表会(音楽会) 5年合奏】

さて、日常生活の中で、「いいな」と感じる一言があります。それは「ありがとう」です。ほんの些細なことでも、してくれたことに対して「ありがとうございます」と自然に言えるのはすばらしいと感じます。逆に、何かをしてあげたのに「何も反応がない」と嫌な感じをもってしまいます。

では、「ありがとう」とは何でしょう。辞書で改めて調べてみると「有り難(がた)い」からきていて、「存在が稀である・珍しい」や「感謝したい気持ち」とあります。普段使っているのは、あとの「感謝の気持ち」でしょう。では、その「感謝の気持ち」とはどんなときに生まれるのでしょうか？

目の前のコップに半分の水が入っていたとします。それを見て、「半分しか入っていない」と思うのと、「半分も入っている」と思うのでは、随分気持ちの持ち方が変わります。これは「全く無い状態のことを考えたら半分も有る。これは有り難いことだ。」とすることができれば、それが「感謝」となり、「ありがとう」という言葉で表現されます。不思議なことに同じ事象に対してでも、「もっとあればいいのに、たったこれだけか。」と感じてしまえば、「不満」の気持ちが生まれます。このように受け止め方しだいで「感謝」にも、「不満」にもなります。

よく「プラス思考」という言葉を使いますが、まさにプラス思考で考えると感謝の気持ちがたくさん生まれてきます。例えば、「今日は何もなかった。つまらないな。」と感じた日をプラス思考で捉えてみると、「今日は何事もなく、無事一日過ごせた。また、明日も元気にスタートできる。有り難いな。」となります。

このような考え方をしてみると、日常の何気ないところに感謝の気持ちを生み出す出来事がいっぱいあります。感謝の気持ちは、表情や行動にも表れます。「ありがとう」や「ありがとうございます」が多いそんな学校でありたいと思います。